

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

長野県 長野市立三陽中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年11月1日 (水)
- 場 所 : 長野市立三陽中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (32名)、2年4組 (32名)
- オリンピアン : 兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・兼松先生から簡単に自己紹介をした後、オリンピックバリューについて、エクセレンスは「一生懸命頑張る」、フレンドシップは「協力して得点をとる」、リスペクトは「授業(試合)開始時と終了時にしっかりと挨拶と握手をすること」と例を挙げて説明し、授業内にたくさんのオリンピックバリューがあるので意識しながら授業に取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれてタグラグビーを実施。兼松先生はラグビーはパスだけを強化するだけでは勝てず、誰かが前に進んで勝ちに行くことが大事なスポーツだと説明し、みんなが集中して取り組んでいて、味方同士がしっかりとフォローして、パスがつながっていたことが良かったと伝える。

4. まとめ



・運動の時間はタグラグビーを通じてオリンピックバリューを感じてもらったが、座学の時間ではより詳しくオリンピックやオリンピックバリューについて説明すると伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・運動の授業を通じて感じたことと、兼松先生のオリンピック出場までのエピソードから、オリンピックバリューについて考えたいと授業の目的を確認。自身の経験を交えながら3つのオリンピックバリューについて説明をした後、運動の時間に感じたオリンピックバリューについて考えてみよう伝え、グループワークに移る。

3. グループワーク



- ・発問: 運動の時間を振り返り実践できたオリンピックバリューについて考えよう。
- ・発表: 上手くできなくても本気で取り組んだ、どうすれば勝てるかを考えて試合で実践した(エクセレンス)、チーム皆で作戦を立てて試合に臨んだ、誰かがミスをしてフォローし合った(フレンドシップ)、最初の挨拶と応援の声が大切、試合に負けても相手に感謝の気持ちを込めて握手した(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックへ出場してなくても、オリンピックバリューは日常生活でも活かせることなので、全力で向かうエクセレンス、目標を達成するまでに色々な人と関わって築き上げたフレンドシップ、自分も相手も大事にするリスペクトの気持ちを大切にほしい。皆が今日発表してくれたバリューは財産なので、それを忘れずに自分の夢に向かって頑張してほしいと伝え、授業終了。

- 期 日 : 平成29年11月1日 (水) 2日 (木)
- 場 所 : 長野市立三陽中学校
- ク ラ ス : 2年6組 (32名)、2年1組 (32名)、2年3組 (32名)
- オリンピアン : 荻原 健司 先生 (スキー・ルディック複合)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1日 : 5時限、2日 : 1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・荻原先生から、現在長野市に住んでいること、自身が出場した長野大会から開催20周年を迎えること、現在は平昌大会に向けて指導者として選手育成に関わっていることや荻原先生が競技を始めたきっかけ等を紹介。運動の時間の流れを確認した後、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・雪のない体育館でも、スキー・ルディック複合の体験ができる「そりりレー」を実施。2人組になり、1人がバスマットの上に体育座りに乗った状態で紐を握り、もう1人が紐を腰に巻いて引っ張りながら進み、ゴールする早さを6班で競う。

4. まとめ



・そりりレーを通じて、オリンピックバリュー(エクセレンス=全力で行うこと、フレンドシップ=知恵を出し合って取り組むこと、リスペクト=ルールをしっかりと守ることが)が実践できており、また本当に楽しく取り組んでくれたのが伝わって嬉しかったと話し、座学の時間では、オリンピックバリューについてより詳しく説明すると話し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（1日：6時限、2日：2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・座学の時間は皆でオリンピックを考える時間にしよう伝え、各班にA3用紙と10色のペンを配布し、協力してオリンピックシンボルを描いてみようと言問。

2. グループワーク



3. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックに関するクイズを出題。オリンピックは誰もが持てる価値だと話し、「世界の人々がスポーツによってオリンピックを学ぶことができれば、人々がよりよい生き方ができ、平和でよりよい世界を作ることができる」というクーベルタンの言葉を紹介。世界記録が出たり、世界中のアスリートの技術に驚いたりするだけでなく、オリンピックを通じて皆にもオリンピックを知ってもらいたいと伝える。

4. まとめ



・中学3年生では自分の進路を初めて決めることになるが、単に自分の進路を選択するというだけでなく、自分自身の人生を選択するという気持ちで、自分が好きなことや熱心になれることを突き詰めて考えてほしい。
 ・2018年には平昌2018冬季大会が開催される。荻原先生が指導している選手も出場するため、皆により結果を報告できるよう頑張るので応援してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年11月2日 (木)
- 場 所 : 長野市立三陽中学校
- ク ラ ス : 2年5組 (31名)
- オリンピック : 海淵 萌 先生 (カヌー・スラローム)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、持参したカヌーを生徒に見せてカヌーに乗ったことがあるか、競技を知っているかを問いかける。
- ・東京2020大会の近づく中、オリンピックをもっと身近に感じてほしいと話し、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・3チームに分かれ8の字跳びを、作戦タイムを設けながら3回戦実施。生徒達は「全員がとにかく引かからないように意識する」「ゆっくりでもいいので確実に跳ぶようにする」等工夫しながら挑戦。

4. まとめ



- ・海淵先生から各チームとも、仲間が飛びやすいように思いやりながら作戦を立てていたことがオリンピックバレーのフレンドシップにつながる話し、次の座学の時間ではオリンピックバレーをより詳しく話すことと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピック最終予選の映像を見せながら自己紹介とカヌー競技について説明した後、自身の経験を交えながら3つのオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝全力を尽くす、諦めない」、「フレンドシップ＝協力する、仲間を作る」、「リスペクト＝お互いを高め合う、感謝の気持ち」と説明。

3. グループワーク



・発問：運動の時間を振り返り実践できたオリンピックバリューについて考えよう。
 ・発表：90秒全力で跳んだ、ミスしないように声を掛け合った(エクセレンス)、跳べたときに皆で喜びを分かち合った(フレンドシップ)、誰かがミスしても責めなかった、全員が跳べるように回す速さを調整した(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・皆もこれから夢や目標を見つけようと思うが、その達成に向けて取り組む中で、オリンピックバリューを活かせる場面が必ずあるので、バリューを忘れずに自分を成長させてほしいと伝える。
 ・東京2020大会では、選手として出場する以外にも、ボランティア等運営側として関わることでもできると話し、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 集 合 写 真

2年5組



2年6組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



2年6組



■ 証明書贈呈

